

【Femmes du Monde: 地球に生きる女性たち】展覧会

会期 2月27日(土)～3月31日(水) 入場無料
 場所 行幸地下ギャラリー(東京・丸の内) 通路開放時間毎日6:00-0:30
 日本経済新聞社東京本社2階 SPACE NIO(平日10:00-18:00のみ開館)



ユネスコの「平和のためのアーティスト」(UNESCO Artist for Peace)にも選ばれ、世界50か国を旅して世界の女性たちの素顔を写真、デッサン、映像に残しているティトゥアン・ラマズー氏の作品を展示します。女性の特性的の中にこそ表現される無限の多様性が証明される作品群です。

全長220mにわたる「行幸地下ギャラリー」には約100点の写真や映像作品の一部を展示し、同様に日経本社2階の「SPACE NIO」でも、作品の一部を紹介します。

FEMMES DU MONDE 地球に生きる女性たち

20年間、私はこの惑星の港から港を縦横に渡ってきました。職業としての航海家にピリオドを打ったとき、より文化的かつ、『陸』式の人生を歩み始めたのです。このさすらいの生き方は、国境を越え国々を渡るよりも、地球上の個々人との出会いを数知れない程もたらしてくれました。また、私の諸国漫遊中により多くのインスピレーションを与えてくれたのは、女性のミュージズたちであることに気が付きました。かくして2002年、とりわけ女性の肖像画を通して一般世界に捧げる作品製作という、長年温めてきたプロジェクトを実行するために、『アフリカの角』ソマリアへ準備のための旅に出ました。この初めての旅から戻ったとき、私は、このプロジェクトは豊かさの面において、私がかつて成してきた全ての仕事を超越したところにあるのだと気が付きました。大臣から農民まで、太古の昔から男達が率いてきた社会において男達が果たしてきた宿命よりも、私達の社会変化における女性達の宿命は飛躍的に存在感を増してきています。それからというもの、人類共通の危惧の単一性と同時に、女性の特性的の中にこそ表現される無限で驚嘆すべき多様性を証明するために、世界15地域、5大陸を旅してきました。

ティトゥアン・ラマズー



ティトゥアン・ラマズー(TITOUAN LAMAZOU)プロフィール

1955年モロッコのカサブランカ生まれ。アーティスト、作家、航海者。17歳で国立美術学校入学したが航海に方向転換。数々のヨットレースで優勝。その後世界を旅しながら旅行記などを制作。さらに世界の女性を描き続ける。

2002年から世界の女性を描くプロジェクトを始める。2003年、ユネスコの「平和のためのアーティスト」に任命され、ユネスコは2007年10月から2008年3月までパリ人類博物館で開かれた展覧会「Femmes du Monde」(=Women of the World、世界の女性たち)を支援することを決定した。ユネスコは人道的な見地から、またそのプロジェクトを特徴付ける文化の多様性という意味からも彼の作品・展覧会を価値あるものと見なしたのである。この展覧会は約20万人の来場者を記録した。ユネスコ、フランス語圏国際局、TV5は共同で「世界の女性たち」の映像を作成し、平和のためのアーティストの任命式でも映写された。

水彩、デッサン、写真、映像といったさまざまな表現を用いたこの芸術的なアプローチは、世界における「平等」という概念を共有するため、とりわけ男女の間の「平等」を共有するための文明間の対話の努力の必要性を問いかける。